

2026年5月

山辺 弦

国外研究成果報告書

1. 研究課題

転換期キューバ文学研究における先端的動向の理論的分析

2. 研究場所および日程

- ・スペイン（バルセロナ大学等）2024年4月～2025年3月
期間中、以下の場所でも研究調査を実施。
- ・スペイン（マドリード）2024年7月1日～7月13日
- ・アルゼンチン（ブエノスアイレス）2024年7月13日～8月6日
- ・イタリア、チェコ、オーストリア各都市 2024年8月7日～8月16日
- ・ドイツ（ベルリン・イベロアメリカ研究所等）2024年8月18日～9月24日

3. 研究活動概略

2024年度は、スペインのバルセロナ大学を主要拠点として長期滞在し、現地の出版・研究事情の調査および研究ネットワークの形成に努めた。特に、近年のビルヒリオ・ピニエーラ研究の嚆矢である受入教員のメルセデス・セルナ教授と、ピニエーラ研究やキューバ文学研究の文学史的な位置づけについて密接な情報交換を行った。また、現地在住のキューバ文学研究者や作家と直接接触し、研究の進展に不可欠な知見と協力関係を築いた。

加えて、ドイツ、イタリア、チェコ、オーストリアなどの欧州諸国においても現地調査を実施し、キューバ文学の国際的流通や知的生産に関する資料収集・現状把握を実施した。これらの現地調査および理論的文献の講読を通じて、キューバ文学研究の多極化を分析するための理論的枠組みの構築を進展させた。

国外研究成果報告書

4. 研究課題

転換期キューバ文学研究における先端的動向の理論的分析

5. 研究場所および日程

- ・アルゼンチン（ブエノスアイレス大学）2025年4月～2026年3月
期間中、以下の場所でも研究調査を実施。
 - ・アメリカ（サンフランシスコ）2025年5月21日～5月29日
 - ・ウルグアイ（モンテビデオ等）2026年2月6日～2月8日
 - ・ブラジル（リオデジャネイロ）2026年2月12日～2月17日

6. 研究活動概略

2025年度は、アルゼンチンのブエノスアイレス大学に拠点を移し、グアダルルーペ・シルバ博士を受入教員として研究活動を継続した。同博士が所属するカリブ研究班のメンバーや、現地の作家、独立系出版社の関係者らと交流を持ち、南部ラテンアメリカにおけるキューバ文学の受容と出版流通拠点の分析を深めた。また、近隣のブラジルやウルグアイにおいても研究調査を実施し、地域的な文学状況の比較検討を行った。5月には米国サンフランシスコで開催された国際学会 LASA 2025 に参加し、本研究とも関連するパネルにて司会および発表者を務めた。また、ブエノスアイレスで開催された文学フェスや独立系出版社の文学フェア等に積極的に参加し、現地の文化空間や現代文学イベントの参与観察を実施した。

年度を通して、当初計画されていた研究をすすめるとともに、関連する研究にも着手し本研究の展開を図った。特に、エルサルバドルの亡命作家オラシオ・カステジャーノス・モヤの東京滞在や、日系アルゼンチン作家アレハンドラ・カミヤとブエノスアイレスの都市経験を「移動と断絶」という本研究に関連する主題から扱った研究は、英語での論文集に所収の論文（2026年度内刊行予定）や、雑誌『季刊民族学』所収の記事として発表に至ることができた（2026年4月刊行）。